

## 令和6年度 第50回 一華会定期総

令和6年度 第50回一華会定期総会が5月12日（日）午前10時より福山すこやかセンターにおいて開催された。第50回となる本年度定期総会は、県内外多数の会員の参加により執り行われ、引き続き研修会が2部に分かれて行われ実り多き総会だった。

まず、大楽悠雪会長をはじめ出席した会員により、令和5年度事業経過報告、会計報告と会計監査報告、規約が審議され承認された。

続いて、令和6年度新役員、事業計画の発表があり、了承され滞りなく終了した。

### ■ 総会次第

1. 開会のことば（大楽悠雪会長）
1. 令和5年度事業経過報告（児玉恒風副理事長）
1. 令和5年度会計報告と会計監査報告（林桜華事務局長、高橋光恵監査）
1. 規約の審議（三宅華邦副会長）
1. 役員の発表と承認（端妙華副理事長）
1. 新役員あいさつ（大楽悠雪会長）
1. 一華会昇格者発表（林幽桂副会長）
1. 令和6年度事業計画（千葉幽篁理事長）
1. 閉会のことば（山田翠香副会長）

### ■ 大楽悠雪会長あいさつ

この会は書、芸術を追い求める諸作家の集合体である。つまり個々一人一人が自分の作品と真摯に向かい、その真摯に向かい合ったことに、その団体の中の自分に満足するのではなくその先にある一週間後、一か月後、……十年後がどうなのか自己研鑽して改革を繰り返していけるような団体でありたい。

一人だけでは限られている。自分の目だけでは気が付かなかった何かしらのヒントを先輩方、書友、後輩達から感じ取り、更に自己研鑽を進め個々の研鑽と横、縦の繋がりとこのものをさらに大切にする組織体であってほしい。

全体としての一華会、しかしそれを構成するのは一人一人である。各々が会の事を考えて協力しあって、それが翻って自分自身のもとに返ってくる循環がもてるような瑞々しい会でありたい。

お一人お一人のお力をおかしいいただき、作品の方向性は違おうともお互いが手を携えて、大楽華雪という創始者の基に集まったということ。縁という意味では同じ方向を向いていける会が、五年経過した現在を新たなスタートの年としたいと思う。



## ■ 研修会 1 部

「高貞碑」について解説 千葉幽篁先生



## ■ 研修会 2 部

「高貞碑」について実技指導 大楽悠雪先生 千葉幽篁先生 児玉恒風先生

